

山陽小野田市 水道の歩み

昭和 20 年代頃の水道管の布設工事の様子

○小野田地区

小野田地区は、旧来の地形が半島であったため雨水を十分に保水できず、古くより水不足に悩まされていました。江戸時代初期から明治初期までの間に大規模な干拓工事が行われ土地は広がりましたが、干拓地の塩分を含んだ井戸水は飲料に適さず、排水の便が悪く伝染病も多発したために早期に上水道の設置が望まれていました。

明治になって、小野田セメント(株) (現在の太平洋セメント(株)) が宇部市の厚東(こと)川を水源として民間の水道事業を計画し、大正 11 年に国の認可を得ると、当時の小野田町が町営水道の設置のためその権利を譲り受け、昭和 4 年より工事を開始し、昭和 6 年から町内へ給水されるようになりました。その後、昭和 15 年の小野田町と高千帆町の合併による小野



田市誕生や、発電所の建設や工場の増設、石炭ブームによる商工業のめざましい発展などにより、水道・工業用水の需要増も見込まれたため、山口県はそれに対応すべく厚東川ダム建設に着手し、これに伴い高天原(たかまがはら)浄水場や竜王山(りゅうおうざん)配水池が建設され、その後も基幹産業の進出操業により急増する水需要に対応するために丸山ダムが築造されました。これらの事業拡張により、小野田地区では計画給水人口 57,600 人、計画一日最大給水量 32,400m³を給水できる水道施設が構築されました。



たかまがはらしゅうすいじょう
高天原浄水場

○山陽地区

山陽地区では、最も人口が集中している厚狭(あさ)低地の水質が良くないうえ、第 2 次世界大戦直後まで開発された炭鉱による汚濁が相乗したため、上水道の設置が望まれていました。厚狭川を水源とすることも検討されましたが、戦後の炭鉱増産に伴い、上流域の炭鉱からの粉塵(ふんじん)や汚水により、川の水は黒くなっていました。そのため、鴨庄(かものしょう)に取水井を設置して地下水を水源とした上水道設置が昭和 24 年に山陽町議会において議決され、昭和 27 年から町内へ給水されるようになりました。また、厚狭川の炭塵(たんじん)汚水の問題については、昭和 33 年に議会内に汚水対策特別委員会を設置して、上流域の調査や再三の関係者への要請等がされた結果、昭和 35 年秋から次第に厚狭川の水質も改善されて、清浄さが保たれるようになったことや、増え続ける給水人口と使用水量の増加に対応するため、昭和 42 年から厚狭川の表流水を水源とした水道水の供給も開始されました。その後も山野井工業団地の造成により産業都市として発展が見込まれて、事業拡張を行い、山陽地区では計画給水人口 26,120 人、計画一日最大給水量 15,830m³を給水できる水道施設が構築されました。



かものしょうしゅうすいじょう
鴨庄浄水場

〇現在

山陽小野田市水道局 庁舎



平成 17 年 3 月 22 日の山陽小野田市の誕生と同時に、計画給水人口 83,720 人、計画一日最大給水量 48,230m³/日の水道事業と 2 つの簡易水道事業及び工業用水道事業を合わせて山陽小野田市水道局がスタートしました。事務所は新生一丁目（旧小野田市水道局）に設置され、浄水場は小野田地区に高天原（たかまがはら）浄水場、山陽地区に鴨庄（かもしょう）浄水場をそれぞれ持ち、市域全体に水道を給水する施設が構築されています。

本市の水道事業は拡張事業を重ねながら、市民の健康で文化的な生活を支えるとともに、産業活動や都市機能の向上に必要なライフラインとして市勢の発展に寄与してきましたが、現在では上水道の普及率（行政区域内人口に対する給水人口の割合）が 99.3% となり、殆どの地区で水道が利用できるようになりました。

近年、暮らしの安全に対する関心が高まる中で、今まで以上に安全な水道水を供給するため、「山陽小野田市水道局水質検査計画」を策定して、水道局窓口やホームページ等で公開するとともに、市内 9 箇所にて水質モニターにより毎日の水質状態を確認していただき、異常があった際には迅速に対処できる体制がつくられています。



すいげんかんようりん
水源涵養林 案内看板
(美祢市秋芳町嘉万)

修繕の連絡・受け付けや料金の支払いについても、水道局の事務所において夜間・休日窓口を設置するなど、質の高いサービスを図っています。

また、水道のおおもとである水源地域の山林や河川の環境保全を行い、水源の水質や水量の維持を図るため、平成 13 年度より水源涵養林（すいげんかんようりん）事業を開始して厚東川の上流域である美祢市秋芳町の山林を取得し、自然の恵みである水を保護し育む取り組みを行っています。

山陽小野田市の水道事業等

事業名	給水開始日	施設規模等
水道事業	小野田地区 昭和 6 年 4 月 1 日	1 日計画最大給水量 32,400 m ³ /日
	山陽地区 昭和 27 年 6 月 1 日	1 日計画最大給水量 15,830 m ³ /日
	合計	48,230 m ³ /日
簡易水道事業	いもじや 鋳物師屋・西山地区 昭和 56 年 4 月 1 日	1 日計画最大給水量 38 m ³ /日
	かたおぼた 平原・片尾畑地区 昭和 58 年 6 月 1 日	1 日計画最大給水量 22 m ³ /日
工業用水道事業	昭和 29 年 4 月 1 日	給水能力 24,700 m ³ /日 現在 3 社に供給